

市長所信表明

●熊本県民体育祭開催地として 万全な体制を整備

また、今年9月には宇城地域において、宇城市を中心に熊本県民体育祭が開催されます。本市では、松橋高等学校グラウンドにおいて総合開会式および陸上競技が開催されるほか、13会場で競技が予定されており、万全な体制を整備します。

●「放課後子ども教室」の実施

次に、生涯学習においては、国・県の補助を受け、「放課後子ども教室」事業を実施いたします。これは、放課後、学校の空き教室を利用し子どもたちの安全な活動拠点とし、地域の方々の参画を得ながら、勉強やスポーツ、交流活動などを行うものであり小野部田小学校での実施を予定しております。

●パイロット事業を展開

ここまで、私の所信と各部署との本年度の事業および予算(案)についてご説明してまいりました。

本年度も依然厳しい財政状況でありますが、そのような中でも各部それぞれが未来の宇城市を見すえた可能性の種となる施策を打ち出しております。

地方自治体が激しい嵐に襲われていくこれからの時代は、努力する地域とそうでない地域との間に大きな格差が現れてくる時代であり、宇城市は今、重大な岐路に立たされていると考えます。

10年後、20年後、大きな飛躍を実現することができるか、それとも各地域の発展の陰で停滞に甘んじなければならぬか、いまその転換期にあります。10年、20年後、これらの施策の中から、必ずや宇城市を救う芽を出すものが出てまいります。

現在、宇城市では、市役所を挙げて無駄なコストの見直しや予算の削減に取り組んでおります。このことは、減少した歳入額に歳出額を合わせざるを得ない状況で行っていることではありません。限りある、そして市民の皆さまからお預かりしている大切な予

算を、宇城市の未来のために使えるようにと、選択と集中を行ってまいります。

これはまた、過去の積み重ねの上に生きるわれわれが、未来のために今、行うべきことでもあります。

120年前、わが国最後の内戦であった西南戦争の焼け野原の中、先人たちが三角西港を築いたように、また戦後の食糧難の時代を乗り越え、宇城市を豊かな農産物を生む大地に変えた父や母たちのように、次は今を生きるわたくしたちが、未来に生きる子や孫のために新たに積み重ねていくべき時であります。

冷たい冬に地中でじっと根を張った草花が、春には満開の花を咲かせるように、もうすぐ冬も終わり、また春がめぐってきます。わたくしたちも今はじっと耐え、深く根を張らねばなりません。市長として、市民の皆さま、そして市議会議員の皆さまとともに未来の宇城市を満開の花で一杯にできるように、皆さまの力強いご支援とご協力をお願いいたします。

以上、市政運営の所信、本年度当初予算案および平成18年度補正予算案についてご説明申し上げますが、今定例市議会には、これら予算案のほか、議員



阿曾田 清 宇城市長



また、それぞれの地域の皆さまが協力・連携することが住み良いまちづくりの基本であると思えます。このため、モデルとなる自治公民館を指定し地域の連帯意識の高揚を図るパイロット事業を展開してまいります。

●文化ホールや美術館での企画・鑑賞を推進

芸術・文化事業では、文化活動を通じ創造性豊かな地域づくりを進めるため、文化ホール・美術館での企画・鑑賞を推進してまいります。

美術館ではブラジル移民百周年記念事業としてブラジルのピカソといわれた宇城市出身のマナブ・間部展を開催いたします。市民が芸術文化を身近に感じ本市の長い歴史はごくまれに伝統文化の継承を図るため本年度も「宇城市伝統文化芸能まつり」を継続して開催いたします。

●収集した公文書の整理・保存と古文書の解説・目録作成

歴史・文化財につきましては、アーカイブ事業に伴い、収集した公文書を整理・保存し、併せて発掘した古文書の解説および目録の作成を進め、アーカイ



小川工業高校生徒が作成した文化財説明看板が2月21日、市に寄贈されました

ブス会館のオープンを目指してまいります。

また、松合地区の伝統的建造物群保存地区選定に向けての事前調査および三角町の小田良古墳周辺の保存と活用につきましても、熊本県立大学と包括協定を結び、その中で調査・研究をしております。

企業会計

次に企業会計について申し上げます。

まず、市民病院事業会計について申し上げます。

市民病院の現状は他の自治体病院同様、大変厳しい経営状態が続いております。

市民の健康づくりの基本であります健康宇城市21計画の下、各種の健康検診・健康づくり事業を通して市民の健康づくりの拠点として経営面の改革を行いながら健康立市の樹立を側面からバックアップしてまいります。

次に、水道事業について申し上げます。

水道水の供給に当たっては、清浄にして安全な水を安定して供給するために、日夜、水質および施設の安全対策に万全を期しているところであります。

本年度給水戸数を1万2400戸、年間給水量を349万5000立方メートル、1日最大給水量を9575立方メートルと予定しており、独立採算を基本原則に経営しているところであります。

今後は、水道普及率の向上や水道料金の滞納者に対する徴収強化による収入確保に努め、支出面では効率化によるコスト削減を図ってまいります。

平成18年度補正予算

また今回の市議会には平成18年度補正予算を提案しておりますので併せて説明いたします。

その主な内容は、事務事業の変更ならびに国の補助事業の内示の増減や事業費の確定などに伴うものであり、これらの結果、一般会計では4億835万5千円の減額予算となり、18年度一般会計予算総額は282億1074万1千円と相成るわけでございます。

減を図ってまいります。

なお、本年度の主な建設改良事業としましては、三角町の大田尾・小田良地区を今年度から2年間で総事業費2億2000万円をかけて拡張事業に取り掛かります。

以上が平成19年度当初予算の主な概要でございます。